

2016年9月1日

報道関係各位

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

2016 年度「PRアワードグランプリ」
審査体制を一新して9月1日からエントリー募集開始
～審査委員長に博報堂ケトル嶋氏～

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（理事長：近見竹彦）は、2016年度「PRアワードグランプリ」のエントリー募集を開始いたします。

PRアワードグランプリは、一般企業の広報部門やPR会社が実施するコミュニケーションプロジェクト（広報・PR活動）の事例を広く募集し、審査を通して優秀な活動を表彰・公開するもので、わが国におけるコミュニケーション技術の質的向上とパブリックリレーションズに対する一層の理解促進を目指しており、2001年にスタート、本年度で16回目を迎えます。

今年度は、これまで応募部門ごとに行われていた審査体制を一新。博報堂ケトル共同CEOの嶋浩一郎氏を審査委員長とし、企業広報やPR関連会社で高い実績と経験を備えた合計8名の審査員団が、エントリー全作品をグランプリ選出まで一貫して選考に当たります。まさにPRのプロフェッショナルが部門の枠を超えて、PR業務の最高峰を選出するアワードの実現を目指します。

さらに今回、従来のエントリー部門に加えて「インターナル・コミュニケーション部門」を新設いたしました。一般企業・団体や自治体などが日常的に行っている内部向けのコミュニケーション部門を新設することで、一般企業・団体や自治体からもエントリーしていただきやすい部門構成といたします。

応募締切は10月31日（月）必着となっています。

●この件に関するお問い合わせ

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

担当：福家・渡邊・木崎

TEL：03-5413-6760

「PRアワードグランプリ」募集概要

◇ 趣旨

パブリックリレーションズの活動事例について広く募集し、審査を通じて優秀な活動を表彰・公開することを通じ、パブリックリレーションズの質的向上に資するとともに、パブリックリレーションズに対する一層の理解促進を図る。

主催：公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

後援：経済産業省・日本広報学会・公益社団法人 日本広報協会

◇ 応募作品

企業・団体が実施あるいは参加したコミュニケーション活動（現在も継続中であれば過去の応募作品も可）

◇ 対象期間

最近1年間（2015年10月1日～2016年9月30日）に成果があがった活動、または2015年10月1日以前から実施し、複数年にわたり現在でも継続している活動

◇ 応募部門（5部門）

■コーポレート・コミュニケーション部門

社会の支持と理解を得て、企業・公共機関・団体の活動を円滑に推進するためのコミュニケーション活動

※日常的な広報・PR活動、ブランディング、レピュテーションマネジメント、危機管理対策など

■マーケティング・コミュニケーション部門

商品・サービスの開発、市場への参入・規模拡大を望ましい形で展開していくためのコミュニケーション活動

※イベント・キャンペーン、パブリシティ、ウェブサイト、ソーシャルメディア（ブログ、フェイスブック、ツイッター等）、各種アプリ、カスタマーリレーション施策など

■ソーシャル・コミュニケーション部門

社会の重要な構成員として企業・公共機関・団体の果たす社会的役割の訴求や社会貢献はもちろん、積極的に社会の発展や環境の維持発展などを目的としたコミュニケーション活動

※CSR活動、環境コミュニケーション、NPO、NGO活動など

■インターナル・コミュニケーション部門

組織内における所属員へのビジョンの浸透、価値観の共有、行動喚起、内部コミュニケーションの活性化など、インターナル・ターゲットに対する広義のコミュニケーション

ョン活動

※ 内部向けコミュニケーションシステム、ツールの開発、継続的な内部向けイベントメディアを通じた活動など

■研究・開発部門

独創的なアイデアや手法で広報・PR全体の革新や個別業務の発展に寄与貢献した活動

※ 理論・研究、人材育成、マネージメント、及びサービス・技術・システム・ツールなどの開発や実践

◇ 募集期間 : 2016年9月1日(木)～2016年10月31日(月)必着

◇ エントリー方法

・エントリーシートファイルを添付しE-mailで事務局宛に送付

◇ エントリー料

・会 員 : 10,800円/1作品(消費税込/振込手数料別途)

・非 会 員 : 21,600円/1作品(消費税込/振込手数料別途)

◇ 審査方法

グランプリ候補作選出審査、グランプリ選出審査の2つのステップを通じて、厳正に審査を行う。

1. グランプリ候補作選出審査(11月中旬予定)

審査員団が一貫して全作品を審査。

グランプリ候補作、それに準ずる作品を選考。グランプリ候補作はグランプリ選出審査会(12月7日)でプレゼンテーションを実施していただきます。

2. グランプリ選出審査会

日時: 2016年12月7日(水) 13:30～18:00(予定)

会場: 六本木アカデミーヒルズ49「オーディトリウム」

グランプリ選出審査会では、グランプリ候補作選出審査を通過した作品について、各エントリー企業・団体がプレゼンテーションを実施。

審査には、グランプリ候補作選出審査の審査団に加え、特別審査員が加わり、「グランプリ」「ゴールド」「シルバー」の各賞を決定します。

◇ 表彰

- 「グランプリ」 : 1 作品 (表彰盾と副賞 10 万円を授与)
「ゴールド」 : 2 作品まで (表彰盾と副賞 5 万円を授与)
「シルバー」 : 5 作品まで (表彰盾と副賞 3 万円を授与)
「ブロンズ」 : 7 作品まで (表彰状を授与)

＜グランプリ候補作選出審査＞ (敬称略、50 音順)

■審査委員長 嶋 浩一郎 (株式会社博報堂ケトル 代表取締役社長・共同 CEO)

■審査委員 (7 名)

雨宮 和弘 (クロスメディア・コミュニケーションズ株式会社 代表取締役)

上岡 典彦 (株式会社資生堂 コーポレートコミュニケーション本部広報部長)

遠藤 祐 (株式会社オズマピーアール 取締役 副社長)

小林 右樹 (一般社団法人企業研究会 研究協力員)

中里 忍 (ブルーカレント・ジャパン株式会社 バイスプレジデント)

松本 洋司 (株式会社電通パブリックリレーションズ 関西支社 次長)

吉宮 拓 (株式会社プラップジャパン 執行役員)

■特別審査委員 (グランプリ選出審査会に参加)

阿久津 聡 (一橋大学大学院 国際企業戦略研究科教授)

大宅 映子 (ジャーナリスト・評論家・コメンテーター)

田中 里沙 (株式会社宣伝会議 取締役副社長 兼 編集室長)

◇ 「PRアワードグランプリ」上位入賞作品を以下で紹介

- ・ PR協会Webサイト
- ・ 協会出版物 (「PRSJ Yearbook」「協会ニュース」等) で発表
- ・ PR協会主催のセミナー等

◇ 受賞者は今後のPRアワード等に関する告知・啓発活動にご協力いただく場合があります。

◇ 受賞者は展示会へのパネル出展にご協力いただく場合があります。

◇ 優秀作品に関しましては、エントリーシートを協会Webサイトで公開する場合があります。

添付資料 1

「PRアワードグランプリ」受賞作品一覧（会社名は当時）

2015 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)博報堂	カゴメ ウェアラブルトマトプロジェクト
コーポレート・コミュニケーション部門	学校法人 近畿大学	近畿大学 知と汗と涙のコミュニケーション戦略
マーケティング・コミュニケーション部門	(株)電通	ロッテ ガム市場の活性化 PR “噛むチカラ”の復権！ウェアラブルデバイス『リズムカム』
ソーシャル・コミュニケーション部門	(株)アサツー ディ・ケイ	つくば市総合運動公園建設計画の是非を問う PR プロジェクト
イノベーション／スキル部門	(株)電通パブリックリレーションズ	産学連携：危機管理イノベーション・プロジェクト ～危機事象についてメディアと企業のギャップを調査し、新たな危機管理フレームワークを開発。 日本企業の危機管理をデータ・ドリブンなソリューションへと進化させた。危機管理の取り組みが企業の成長を後押しすることが明らかに～

2014 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)電通	「地方の生産者と、都市の生活者との断絶を克服。世界初の食べる月刊情報誌「東北食べる通信」 創刊&ブランディング作業」
	ファイザー(株)／(株)オズマピーアール	「ピリピリ！ジンジン！チクチク！見えない痛みどう伝える？産学共同プロジェクト『オノマトペラボ』「痛みのオノマトペ」で医療現場におけるコミュニケーション課題を解決」
コーポレート・コミュニケーション部門	旭硝子(株)	「世界最高峰のスポーツイベントFIFA W杯で、史上初のガラスベンチルーフのライセンス権獲得と戦略的PR展開による低予算での全社的なAGC旭硝子グローバルブランディング・プロジェクト」
マーケティング・コミュニケーション部門	(株)伊藤園／ピーアールコンピナート(株)	「伊藤園お～いお茶新俳句大賞の25年(四半世紀)」
イノベーション／スキル部門	(株)電通パブリックリレーションズ	「広報オクトパスモデル開発 上場企業の広報力比較調査 ～広報業界のさらなる発展をめざして～」

※なお、2014 年度はグランプリが 2 作品ともソーシャル・コミュニケーション部門より選出されたため、同部門最優秀賞は該当なしとなりました。

2013 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)TBWA 博報堂／(株)博報堂	「土のフルコース」プロトリーフ社のコーポレートコミュニケーション
コーポレート・コミュニケーション部門	東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会	東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致における戦略広報活動
マーケティング・コミュニケーション部門	アツヴィ(同)／エーザイ(株)	10 月 29 日「世界乾癬デー」啓発イベント『“美容師の卵”がはじめて学ぶ乾癬患者さんの気持ち』
ソーシャル・コミュニケーション部門	(株)ワカゾウ	選挙割(センキョ割)
イノベーション／スキル部門	(株)博報堂	「転載」を活用した中国での科学的PR手法

2012 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)電通パブリックリレーションズ	もっとクロス！計画 ～日本赤十字社PR力強化プロジェクト～
コーポレート・コミュニケーション部門	大阪市交通局／(株)博報堂／(株)大広／(株)オズマピーアール	「元気な大阪」体験取材プログラムで5つのWIN それいけ！OSAKAはっけん隊
マーケティング・コミュニケーション部門	(株)電通／森永製菓(株)	森永製菓「森永甘酒」のための甘酒市場活性化を目的としたPR活動
ソーシャル・コミュニケーション部門	ブルーカレント・ジャパン(株)	熱中症や感染症による「脱水状態」に対する正しい知識の認知向上 教えて！「かくれ脱水」委員会

2011 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)電通パブリックリレーションズ	議会広報紙のイノベーション ～さいたま市議会「ロクマル」の挑戦～
コーポレート・コミュニケーション部門	(株)オズマピーアール	宇都宮市都市ブランド戦略プロジェクト 宇都宮プライド ～100年先も誇れるまちを、みんなで～
マーケティング・コミュニケーション部門	(株)電通 関西支社／(株)電通パブリックリレーションズ 関西支社	「アイスの実」キャンペーン 2011PR活動
ソーシャル・コミュニケーション部門	セカンドハーベスト・ジャパン	被災地 石巻へ食糧配給拠点立ち上げ ～東日本大震災直後からの支援活動～
イノベーション部門	(株)博報堂	「マーケティング 3.0＝世の中と企業が価値を共創する時代」のPR発想からの統合コミュニケーションプログラム「ヴィクトリーレブプログラム」

2010 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	小林製薬(株)	小学校のトイレピカピカ計画 ～企業・NPO・行政が一体となった小学校のトイレ環境を改善する活動～
コーポレート・コミュニケーション部門	キッコーマン(株)	キッコーマン上海万博プロジェクトによる日本食文化の発信
マーケティング・コミュニケーション部門	(株)ワコール (株)インテグレート	ワコール エイジングケア啓発プロジェクト ～日本人女性の下着選びの意識を変えたIMC戦略
ソーシャル・コミュニケーション部門	(株)TMオフィス	畳新市場開拓プロジェクト「畳ドクター」認定による畳の復興PR戦略
スキル部門	(株)電通 (株)電通パブリックリレーションズ	PR効果分析ツール「PR@NET SCOPE」(プラネットスコープ)

2009 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)電通パブリックリレーションズ	北海道米ブランド創造プロジェクト
日常広報活動部門	(株)電通パブリックリレーションズ	牛乳供給危機 ～30年ぶりの乳価値上げを目指したPR活動
キャンペーン部門(単年度・単発型)	(株)arex	事故米の風評被害を受けた食品会社のレピュテーション回復のための危機管理広報
キャンペーン部門(複数年度・継続型)	エム・エム・エス・コミュニケーションズ(株) MS&L	夕張市再生支援・「夕張夫妻」プロジェクト
イベント部門	(株)電通パブリックリレーションズ	日本農産物について中国のバイヤーからの認知獲得をめざしたPR活動
ツール・スキル部門	(株)野村総合研究所	生活者視点による、新しい広報・PR効果測定サービス(ツール)の提供

2008 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)電通パブリックリレーションズ	10年ぶりの改訂『広辞苑第6版』発売PR ～ネット全盛時代に「紙の辞書」の有用性を語る～
日常広報活動部門	(株)コムデックス	『魚鱗癬』の啓発活動
キャンペーン部門	日本ミシュランタイヤ(株)	『ミシュランガイド東京』発刊へのPR活動
イベント部門	ピーアールコンビナート(株)	ケルヒヤー『松田川ダム エコ・アート』プロジェクト
スキル部門	(株)電通パブリックリレーションズ	『数字に見る医療と医薬品』(年刊)発行

2007 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(株)	女性が働きやすい社会をめざして ～ダイバーシティ推進と女性活用からの学びを通じた社会貢献～
ルーティン活動部門	ピーアールコンビナート(株)	ロッテの四半世紀にわたるチューインガムの社会的価値向上活動
キャンペーン部門	キッコーマン(株)	キッコーマン アメリカ進出 50周年プロジェクト
スキル部門	(株)タカオ・アソシエイツ	広報・危機管理マニュアルの作成・発行

2006 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	ファイザー(株)	喫煙者の禁煙意識向上とニコチン依存症の疾患啓発活動
ルーティン活動部門	帝人(株)	帝人グループの認知度向上プロジェクト
キャンペーン部門	(株)電通	牛丼復活に対するコミュニケーション活動
スキル部門	(株)電通パブリックリレーションズ	中心市街地活性化に係る国民への広報のあり方に関する調査研究

2005 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)博報堂	地球温暖化防止「国民運動」
ルーティン活動部門	小林製薬(株)	更年期障害の啓発と「命の母」のPR活動
キャンペーン部門	(株)プラップジャパン	食物繊維の新たな機能「ファイバーデトックス」を訴求するコミュニケーション活動
スキル部門	(株)電通	報道レピュテーション分析プログラム

2004 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)オズマピーアール	「えひめ町並博 2004」PR 活動
ルーティン活動部門	(株)電通パブリックリレーションズ	痴呆症啓発のための調査研究プロジェクト

キャンペーン部門	日本ゼネラル・エレクトリック(株)	『地域に役立つ発明家になろう』プロジェクト
スキル部門	(株)高雄宏政事務所	広報効果測定のための報道記事分析の開発
	(株)博報堂	子どもたちの国際理解のために『日本・中国・韓国の昔話集』1～3巻を作りました

2003 年度

	エントリー会社名	業務名
グランプリ	(株)博報堂	トヨタ ラウム ユニバーサルデザイン広報
準グランプリ	(株)電通パブリックリレーションズ	『JICA 有名化計画』独立行政法人化・広報支援プロジェクト
準グランプリ	松下電池工業(株)	インターネットを使った「遠隔 電池教室」

2002 年度

	エントリー会社名	業務名
最優秀賞	(株)電通パブリックリレーションズ	浦安市 ごみ減量・リサイクル啓発プロジェクト
優秀賞	(株)オズマピーアール／(株)博報堂	丸ビルグランドオープニングを中心とした年間広報活動
優秀賞	(株)電通	カレー再発見フォーラム

2001 年度(秋)

	エントリー会社名	業務名
最優秀賞	ピーアールコンビナート(株)	「伊藤園 お〜いお茶 新俳句大賞」
優秀賞	(株)電通パブリックリレーションズ	ノバルティス「すこやか 5 世代」キャンペーン 2001
優秀賞	伴ピーアール(株)	近畿 1400 万人の飲み水を美しくするヨシ。その琵琶湖 ヨシの保護と活用。

2001 年度(春)

	エントリー会社名	業務名
最優秀賞	(株)博報堂	「納豆 金のつぶ におわなっとう」キャンペーン
優秀賞	ピーアールコンビナート(株)	「ロッテ しっかり噛んで健康家族」
優秀賞	(株)電通パブリックリレーションズ	食のスマートライフ実現のための調査・広報活動

添付資料 2

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 (略称：日本PR協会) について

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（略称：日本PR協会（PRSJ））／理事長 近見竹彦 は、1964年に結成された日本PR協会と、1974年に設立された日本PR業協会が1980年に時代に即したPRの在り方を求め、PRの啓発・普及を図るために合併統合されました。

現在は、一般企業の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに学者・有識者を含む約500名で組織されているPRのプロフェッショナル団体です。

主要活動としては、広報・PRパーソンの倫理の徹底や「各種研修セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、年鑑「PR Yearbook」や会員誌「協会ニュース」、PRにかかわるデータを網羅した「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」及び「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営等を行っており、これらの活動を通じて「パブリックリレーションズ」の理解促進と、会員のPRスキル向上を推進しています。また、2007年より、PRパーソンとしての知識やスキル、職能意識を有することを認定する資格制度「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外のPRパーソンや、PRに興味を持つ学生などの幅広い参加をいただいております。2009年10月からは、新たに時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、広報力アップを目的とした「広報PRアカデミー」を開講いたしました。

さらに、PRプランナー資格認定制度対応テキストとして、2010年4月に「広報・PR概論(1次試験対応)」を、2011年3月に「広報・PR実務(2次・3次試験対応)」、2012年4月に「広報・PR資格試験 過去問題集(1次・2次・3次試験過去問題集)」を出版し、広報・PRの普及と発展に寄与しております。

●〈参考〉PRという用語について

一部にPRは宣伝と混同されている傾向がありますが、パブリックリレーションズ（PR）とは、企業をはじめ官公庁、学校、各種団体等の組織（体）が、自らの活動に関わる多様なパブリック（ステークホルダー）との間に良好な関係を継続的に築いていくための、コミュニケーションをベースとしたリレーションズ活動です。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
〒106-0032 東京都港区六本木6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F
TEL : 03-5413-6760 FAX : 03-5413-2147